埼玉県立大滝げんきプラザ

第５学年　総合的な学習の時間　指導案

１．単元名　「SDGｓについて考えよう」

|  |
| --- |
| **○学習指導要領　総合的な学習の時間　第５学年の内容とのかかわり**  　・総合的な学習の時間の１つのテーマである「SDGｓについて考えよう」の学習にあたり、  　　学級活動、理科、社会、道徳など複数の教科内容を交えた教科横断的に探究的な学習を行  　　っていくことにより、人とのつながり、自然とのつながりについて、日々の生活の中での  　　SDGsとのつながりについて理解し、自分ができるSDGsの取組みを考えることができる。  【教科横断的な学習による各教科の内容とのかかわりについて】  **○学習指導要領　学級活動　第５学年の内容とのかかわり**  　・内容(1) 学級や学校における生活づくりへの参画における、イ　学級内の組織づくりや役  　　割の自覚、ウ　学校における多様な集団の生活の向上が図れることにより、〇〇〇〇〇小  　　学校５年生のスローガンである「〇〇〇〇」が実現できる。  **○学習指導要領　理科　第５学年の内容とのかかわり**  　・内容Ｂ 生命・地球、(3) 流れる水の働きと土地の変化、アの (ｳ) の、自然災害につい  　　て、水の災害を防ぐ役割のあるダムを実際に見学することにより、長雨や集中豪雨がもた  　　らす川の増水による自然災害から自分達を守る役割があることを知り、普段の生活へ意識  　　を向けることができる。  **○学習指導要領　社会　第５学年の内容とのかかわり**  　・内容(5)　我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、ア(イ)、(エ)、イ(イ)  などの内容について、自然体験学習(林業体験)を通して、自然環境と自分達の生活が密接  　　に結びついていることを知り、森林が果たす役割について考えることができる。  **○学習指導要領　道徳　第５学年の内容とのかかわり**  　・内容Ｄ 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること、（20）自然の偉大さを  　　知り、自然環境を大切にすることの自然愛護について、自分たちの生活を振返り、自然と  　　の共存について、自分たちができることについて考えることができる。 |

２．単元の目標・評価規準

　体験活動と関連させながら、森林資源が果たす役割や環境保全について、また、SDGsについて理解を深めることができる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 育成する資質・能力 | 目標 | 評価規準 |
| 知識及び技能 | ・生活の中でのSDGsとのつなが  りについて理解し、自分がで  きるSDGsについての課題を設  定することができる。 | ・日々の生活の中でのSDGsとのつ  ながりについて理解し、自分が  できるSDGsについての課題を設  定している。  ・体験活動等を通して、自分の生  活を見直し、問題の解決に向け  た学習計画を立てている。 |
| 思考力・判断力  ・表現力等 | ・収集した情報を必要に応じて  取捨選択・整理し、また、体  験活動等を通じて、自分たち  にできるSDGsについて考える  ために活用することができ  る。 | ・収集した情報を必要に応じて取  捨選択・整理し、自分たちにで  きるSDGsについて考えるために  活用している。  ・体験活動の経験を、自分たちに  できるSDGsについて考えるため  に活用している。 |
| 学びに向かう力  ・人間性等 | ・調べ学習、体験活動を通じ  て、SDGsについて自分ができ  ることを考え、よりよい解決  に向けて工夫しようとしてい  る。 | ・自己決定した活動に目的意識を  もってねばり強く取り組み、よ  りよい解決に向けて工夫しよう  としている。  ・調べ学習、体験活動を生かし  て、自分の生活を見直し、自分  にできることを主体的に考えよ  うとしている。 |

３．単元構想

（１）集団宿泊活動として学習することのよさ

　　　大滝げんきプラザでの、自然を生かした体験が「主体的な学び」の基礎となる。現在、

　　Society5.0（超情報化社会）により、児童は情報を通じた自然に対する疑似体験を簡単に行

　　うことができる。しかし、実体験を伴った経験に勝るものはなく、多くの実体験は、実際に

　　経験したことは自信につながり、自己肯定感を高めることができる。自己肯定感を高めるこ

　　とができる自然体験学習を提供したい。

　　　大滝げんきプラザで行う自然体験は、子供同士の協働が多くの場面で必要となる。学校生

　　活での集団活動では経験することのできない初めての体験に対して、子供同士の協働の場面

　　を設定することができる。１つ１つの活動は、「よりよい人間関係を形成」することにつな

　　がる。そして、自然体験を通して、「対話的な学び」ができる学年・学級づくりにつなげて

　　いきたい。

　　　自然体験に対して、学校で行う事前学習は大切である。事前学習を通して学んだ知識・技

　　能を学習の見通しに活かし、子供が主体的に考え、課題意識を持つ。そのような意識を持ち

　　自然体験をすることにより、知識と経験を相互に関連付けることができる。事前学習を通し

　　て学んだ知識・技能を、実際の場面で体験することにより、より実感を伴った理解をするこ

　　とができ、このことは「深い学び」にもつなげることができる。「深い学び」をすることに

　　より、自分自身の課題の発見にもつなげることができ、よりよい生活へと意識を向けていき

　　たい。

（２）学習過程と活動内容等

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習過程 | 活動内容 | 時数 | 活動の場 |
| 【事前学習】  **▶課題の把握、設定、情**  **報収集**  ・学習の進め方を知り、  見通しを把握する  ・SDGｓについて知る | **総合的な学習の時間**  ・学習の見通しの把握  **総合的な学習の時間**  ・タブレットや図書室にある本を用いて、SDGsの  取組みについて調べよう  **道徳**  ・自然愛護「もったいない」  **総合的な学習の時間**  ・大滝げんきプラザでの行う体験活動を知ろう | １  ２  １  １ | 〇〇〇〇〇小学校 |
| 【体験学習】  **▶課題の追求、解決**  ・事前学習の知識を生か  し、豊かな自然に触れ  る  ・学んできた知識を生か  し、技能の習得を図  る。 | **理科**  ・ダムの見学 | ２ | 浦山ダム |
| **総合的な学習の時間**  ①薪割り体験  ②屋外炊事でのカレーライス作り  ④焼き板体験  **学級活動**  ③キャンプファイアで仲間づくり | ２  ３  ２  ２ | 県立大滝げんきプラザ |
| 【事後学習】  **▶整理・分析、まとめ・**  **表現**  ・学習のまとめを行い、  自分が取組めるSDGｓ  について考えをまと  め、発表する。 | **社会**・単元「わたしたちの生活と森林」(下)  **理科**・単元「流れる水の働きと土地の変化」  **総合的な学習の時間**・焼き板の仕上げ  ・お礼のお手紙を書く  　　　　　　　　　・大滝げんきプラザで経験し  　　　　　　　　　　たことをや自分ができるこ  　　　　　　　　　　とについて新聞にまとめ、  　　　　　　　　　　発表しよう | １  １  １  １  ４ | 〇〇〇〇〇小学校 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 〇活動内容　・目標 | | | | |
| 総合的な学習の時間 | 学級活動 | 理科 | 社会 | 道徳 |
| 全体の目標 | ・体験活動と関連させながら、森林資源が果たす役割や環境保全について、また、SDGsについて理解を深めることができる。 | | | | |
| 単元目標 | SDGsについて理解し、自分でできるSDGsの取組みを考える。 | 練習してきた成果を発揮して、学年・学級の絆を深める。 | 川の水による災害や災害に対する備えについて調べ、災害に備えることの重要性を考える。 | 森林にはどのような働きがあり、森林資源はどのように利用されている考える。 | 自然破壊と環境保全についての問題と自分との関りを理解し自然との共存を考える。 |
| 【事前学習】 | **〇学習の見通しの把握**(1)  ・宿泊学習を通して、どのような活動があ  るのか知ることができる。  **〇SDGsについて調べよう**(2)  ・17のキーワードがあることを知り、ど  のような取組がされているか知り、まと  めることができる。  **〇大滝げんきプラザでの学習を知ろう**(1)  ・宿泊学習では、どんなことを行うのか知  り、自主的に活動する心構えを持つこと  ができる。 | **〇キャンプファイア**  **の練習**(2)  ・レクのルールを知  り、安全に活動が  できる。 |  |  | **〇自然愛護「もった**  **いない」**(1)  ・自然を守る心を育  み、大滝げんきプ  ラザでの体験活動  と結びつけること  ができる。 |
| 【体験学習】 | **①薪割り体験**(2)  ・森林資源の視点を持ち、安全に気を付け  て、薪割り体験をすることができる。  **②屋外炊事でのカレーライスづくり**(3)  ・自分たちで作った薪を使い、安全に気を  付け、班で協力し、カレーライスづくり  ができる。  **④焼き板体験**(2)  ・安全に気を付け、自分だけのオリジナル  の焼き板の作品を作ることができる。 | **③キャンプファイア**(2)  ・練習してきた成果  を発揮して、学  級・学年の絆を深  めることができ  る。 | **〇ダムの見学**(2)  ・ダムの働きとし  て、治水、利水、  発電があることを  知ることができ  る。 |  |  |
| 【事後学習】 | **〇焼き板の仕上げ**（1）  ・一生の思い出に残る作品を仕上げること  ができる。  **〇お礼の手紙**（1）  ・大滝げんきプラザの職員に、感謝の気持  ちを伝えることができる。  **〇大滝げんきプラザで経験したことや**  **SDGs自分ができることについて新聞に**  **まとめ、発表しよう**（4）  ・宿泊学習を通じて、身に付けた力や  SDGsについて自分が身近にできること  をまとめることができる。 |  | **〇流れる水のはたら**  **き・わたしたちの**  **くらしと災害**（1）  ・学習したダムの働  きを想起し、川の  水による災害や災  害に対する備えに  ついてまとめるこ  とができる。 | **〇わたしたちの生活**  **と森林**（1）  ・森林のはたらきに  ついて、大滝げん  きプラザで体験し  たことを生かし、  自分たちの生活と  のつながりをまと  めることができ  る。 |  |

（３）「主体的・対話的で深い学び」の視点

　１）主体的な学び

　　①目指す子供の姿

　　　・薪作り体験活動や焼き板体験活動では、事前学習にて、薪作りを行う意義、SDGsとの

　　　　つながりや森林資源が果たす役割や環境保全について主体的に考えることができる。

　　　・大滝げんきプラザでのそれぞれの体験活動において事前学習し、体験の流れを把握し、

児童にしっかりと役割分担をさせ、自分の役割がわかることにより、責任感を持って主

体的に活動に取組めるように指導する。

　　②指導のポイント

　　　・薪割り体験活動では、所内で間伐した木材を用いて、薪作り体験を行う。また、焼き板

　　　　体験活動では、秩父市内の材木店から購入した木材を製材した際に出る端材を活用した

　　　　作品づくりであり、両体験活動とも森林資源の活用をしていることに気づかせるよう指

　　　　導する。

　　　・大滝げんきプラザでの体験学習について、事前学習を行い、子供達の分からないところ

　　　　や不安なところを解消することにより、意欲的・主体的に体験活動を行うことができる

　　　　ように指導する。

　２）対話的な学び

　　①目指す子供の姿

　　　・事前学習において、児童1人1人がそれぞれの体験活動において班での役割分担につい

て進んで話し合う姿を目指す。

　　　・活動中、困っている友達に声をかけ、お互いに協力し合いながら活動でき、活動内容で

修正が必要な場合には、その場で班の中で話し合い、決定できる姿を目指す。

　　②指導のポイント

　　　・体験活動では多くの場面で子供同士の協働の場面が設定できる。それぞれの体験活動に

取組む前に、事前学習において班の中での役割分担について確認する時間を設定する。班の中で、児童が進んで平等に役割分担ができるように指導する。

・体験活動の前に、班の中での役割分担の確認、友達の役割内容の再確認を行うことによ

り、お互いに声を掛け合いながら活動するように指導する。

　３）深い学び

　　①目指す子供の姿

　　　・事前学習を通して学んだ知識・技能を大滝元気プラザでの体験学習の際に想起し活か

し、児童自身が主体的に考え、活動できる姿を目指す。

　　　・事後学習において、大滝げんきプラザでの活動について振り返り、自分の生活の中で行

　　　　うことができるSDGsについて考えることができる姿を目指す。

　　②指導のポイント

　　　・大滝げんきプラザの職員と密に連絡を取り合い、各体験活動の流れや注意点を把握す

る。事前学習において、児童の役割分担を明確にすることにより、児童が主体的に活動

できるよう指導する。

　　　・事後学習において、自然体験学習について振り返りを行い、自分ができるSDGsの取組

について考え、新聞にまとめ、学習内容の深化を図れるよう指導する。

４．青少年教育施設での展開【総合的な学習の時間（時数７時間）、学級活動（２時間）】

（１）ねらい

集団宿泊学習において、班や学級、学年で協力し絆を深めながら活動を行うことができ

るようにする。また、事前学習した大滝げんきプラザでの体験活動について、森林資源の

SDGsの視点で活動ができるようにする。

（２）展開例

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 活　動 | 具体的な活動内容 | 指導上の留意点 | 時間 |
| 体験活動①　薪割り体験　【総合的な学習の時間】 | | | |
| めあてを確認し、活動の内容を確認する。  森林資源の視点を持ち、安全に気を付けて、薪割り体験をすることができる。  職員の活動に関する説明を聞く。 | １．活動内容の確認をする。  ２．活動の諸注意を聞く。 | ◎薪割り体験ではどんな活  動を行うのか、事前学習  の内容を想起し、しおりを  活用しながら伝える。  ◎鉈(なた)等の刃物を使う  ので、真剣に活動に取組  むように指導者の話を聞  くように伝える。 | １０分 |
| 薪割り体験を行う。  つくった薪を、運びやすいように、束ねる。 | ３．グループごとに薪割り体験を  行う。  ①丸太をのこぎりで切る。  ②薪割り台の上に置き、斧で大き  く割る。  ③手斧で細かく割る。  ④薪たがに入るだけ薪を入れる。 | ◎グループ間の距離を十分に  　とり、安全に活動できるよ  　うに指導する。  ◎安全に鉈等の道具を使って  いる児童を称賛し、グルー  プに安全な道具の使い方を  周知させる。  ◎全体に周知しなければなら  ない行動があった場合は、  全員の活動を止め、情報の  共有化を図る。 | ７０分 |
| 活動の振り返りを行う。 | ５．しおりの振り返りカードを用  いながら活動の振り返りをす  る。  ６．感想の発表、学習の深化を図  る。 | ◎体験した活動具体的に感じ  たことや分かったことを記  入するように指示する。  ◎グループで、一人一人自分  　の感想を発表し、情報の共  　有化を図る。その後、全体  　で数人、感想の発表を行  　う。 | １０分 |
| 活　動 | 具体的な活動内容 | 指導上の留意点 | 時間 |
| 体験活動②　屋外炊事でのカレーライスづくり　【総合的な学習の時間】 | | | |
| めあてを確認し、活動の内容を確認する。  自分たちで作った薪を使い、安全に気を付け、班で協力し、カレーライスづくりができる。 | １．活動内容の確認をする。  ２．活動の諸注意を聞く。 | ◎事前学習の内容を想起し、  しおりを活用しながら伝え  る。  ◎職員からの屋外炊事を行う  道具、場所、注意点の説明  をしっかりと聞くように指  導する。 | １０分 |
| 屋外炊事でのカレーづくりを行う。  カレーライスができた班から黙食で食べる。  食べ終わった班から、片づけを行う。 | ３．各役割の仕事を行う。  カレー係  ①野菜を洗い、切る。  ②カレー鍋で野菜を炒める。  ③水を入れる。  ④カレールーを入れる。  飯盒係：  ①お米を洗う。  ②水を図り、飯盒に入れる。  ③かまどでご飯を炊く。  かまど係：  ①かまどに薪を組む  ②焚きつけ材に火が付いたら、  太い薪を入れる。  ③強火を保つように薪を入れ  る。  ４．カレー、飯盒ができあがっ  たら、皿に盛り付け、班ご  とに食べる。  ５．食べ終わった班から、片づ  けを始める。 | ◎カレー係、飯盒係、かまど  係など、班ごとに役割分担  を確認してから作業を始め  る。  ◎早く火をつけすぎると、薪  　が足りなくなってしまうの  　で、カレー係・飯盒係に声  　をかけながら、かまど係  　に、火起こしを行うように  指示する。  ◎カレー鍋、飯盒は、皿に盛  り付け終わったら、水につ  けておくよう指示する。  ◎片付けの際、次の人が使う  ことを考え、きれいに道具  を洗ったり、場所をきれい  にしたりするように指導す  る。  ◎洗い終わった道具は、事前  に職員から指示のあった場  所に戻すように指示する。 | １１５分 |
| 活動の振り返りを行う。 | ５．しおりの振り返りカードを用  いながら活動の振り返りをす  る。  ６．感想の発表、学習の深化を図  る。 | ◎体験した活動具体的に感じ  たことや分かったことを記  入するように指示する。  ◎グループで、一人一人自分  　の感想を発表し、情報の共  　有化を図る。その後、全体  　で数人、感想の発表を行  　う。 | １０分 |
| 活　動 | 具体的な活動内容 | 指導上の留意点 | 時間 |
| 体験活動③　キャンプファイアで仲間づくり　【学級活動】 | | | |
| 練習してきた成果を発揮して、学年・学級の絆を深めることができる。  第１部  儀式の火 | １．「遠き山に日は落ちて」をハ  ミングで歌い、被の神様の  入場を待つ。  ２．火の神様から、火の子が５  つの火をもらう。  ・勇気の火　　・意志の火  ・希望の火　　・感謝の火  ・友情の火  ３．「燃えろよ、燃えろ」を歌  う。 | ◎キャンプファイア係を中心  に、児童だけでキャンプフ  ァイアを運営できるように  指示を出す。  ◎火の子に、火の神様から分  火される時は、トーチ棒が  45度の角度で持つように  指導する。  ◎キャンプファイア薪に火が  付いたら、近づかないよう  に指示を出す。 | １０分 |
| 第２部  交歓の集い | ４．児童を中心に楽しくゲーム  を行う。  ①声だしゲーム  ②猛獣狩り  ③餃子じゃんけん  ④キャッチ  ⑤ぴよぴよちゃん  ⑥ジンギスカン  ⑦１分間ゲーム | ◎司会の児童を中心にキャン  プファイアを運営する。フ  ァイアキーパーと音楽は先  生が担当する。  ◎ゲーム中、絆を深めるため  にマイナスの言葉を使わな  いように事前指導をしてお  く。 | ６５分 |
| 第３部  分火の火 | ５．火の神様から、児童全員に火  の分火を行う。 | ◎分火された火を、隣の児童  にまわしていく時、火傷に  気を付ける。 | １５分 |
| 活　動 | 具体的な活動内容 | 指導上の留意点 | 時間 |
| 体験活動④　焼き板体験　【総合的な学習の時間】 | | | |
| めあてを確認し、活動の内容を確認する。  安全に気を付け、自分だけのオリジナルの焼き板の作品を作ることができる。 | １．活動内容の確認をする。  ２．活動の諸注意を聞く。 | ◎事前学習の内容を想起し、  しおりを活用しながら伝え  る。  ◎職員からの焼き板を行う道  具、場所、注意点の説明を  しっかりと聞くように指導  する。 | １０分 |
| 焼き板体験を行う。  絵付けを行う。 | ３．班ごとに分かれて、焼き板  体験を行う。  ①板を選ぶ。  ②かまどで火起こしをする。  ③板を焼く。  ④たわしでこする。  ⑤布で磨く。  ⑥ヒートンと紐をつける  ４．できた焼き板に、ペンでデ  ザインを描いていく。 | ◎かまどで火付けを行う児童  として、屋外炊事のかまど  係以外の児童が挑戦できる  ように指示を出す。  ◎板を焼いた直後は熱いの  で、しっかりと冷めてから  板をたわしでこするように  指導する。  ◎焼き板のデザインは、宿題  で事前に考え、しおりに描  いてくる。そのデザインを  焼き板に写していくが、サ  　イズや形によっては、デザ  　インを変えてもよい指示を  　出す。 | ７０分 |
| 活動の振り返りを行う。 | ５．しおりの振り返りカードを用  いながら活動の振り返りをす  る。  ６．感想の発表、学習の深化を図  る。 | ◎体験した活動具体的に感じ  たことや分かったことを記  入するように指示する。  ◎グループで、一人一人自分  　の感想を発表し、情報の共  　有化を図る。その後、全体  　で数人、感想の発表を行  　う。 | １０分 |

（３）評価規準

　　・大滝げんきプラザでの体験活動等を通して、自分の生活を見直し、問題の解決に向けた視

点で取り組むことができる。（知識及び技能）

　　・体験活動の経験を、自分たちにできるSDGsとつなげてしおりに感想等をまとめることが

できる。（思考力・判断力・表現力等）

　　・調べ学習、事前学習したことを生かして、自分にできることを主体的に考え、班や学級の

児童と協働して活動することができる。（学びに向かう力・人間性等）